

讀草

五

農商務省
和圖書
第五號
共七冊

內閣文庫	和書
三〇〇八	三〇〇八
七冊	七冊
八架	八架

乙種
農商務省
八七五號
七冊

內閣文庫	
番號	和 30008
冊數	7 (5)
函號	210 15



諺草卷之五

也 第二十七

諺

柳の枝よ。雪おれはる

淮南子曰

木強則折。草固則裂。齒堅於舌而先之。

敝口義云。木強則折。如藤。如柳則難折。

云云

闇夜のほろろ。無用あり。おれ喻あり。

漢書云。富貴不歸故郷。如衣錦夜行。獲

武書語曰。夜行被繡。不足為榮。又古の字に

新考

諺草卷之五

明治十三年購求

凡る人のきくそらりぬるありの

くしくおれけいさなり多り

貫之

病ヤヒかとりて醫イハシをさる

説苑曰。病加於少

愈ユは清スれはさる同

養ヤウ由ユよろよイ淮南子曰。養由基楚將。

善射イ公楊葉百步射シ之ニ百發百中シ楚恭

王獵見百猿遶避箭シ王命由基射シ之ニ由

基始調シ矯矢未發シ乃抱樹而號シ俗流

の起リさるルよシ出スさリから射術シれルも人ニあり

してラれル事ト云ハ却テは笑ハとレの事也

世の人。曲藝キョウゲイ小技コウキあねニ精シ妙ニれル術シとシ備シ
やシ泥ニの濁りル事ト云ハはシはシまシの由よシ
あリてラれル事ト云ハれル類ナリ。

俗語

約束

史記曹參世家よ出ス。

漢書高帝紀註。約要也。謂言契也。小補

韻會曰。言語要結。戒令檢束。皆曰約束。

約又音要。束又高遇切。字義同。約束ハ

詞ハ以テ互ニさシらレるル事ト云ハ。

さシらレるル事ト云ハ。

やくシらレるル事ト云ハ。

いんていしん せしむる母なりせむ

良久ヤ、ヒナシ 史記韓信傳ガよゆらん。又後漢書張

湛傳カ良久歎息ス註良猶甚也

野心ヤ 左傳昭公二十八年傳云狼子野

心。文選丘希範書ガ北狄野心ガ註翰曰野

心謂如野獸之心豺狼の人ノよ烈シく

人臣の君ヲ少シて。裁棄の心ノあつともしむ

しとあり。

寡ヤモメ 小尔雅云凡無妻無夫ナ通謂之寡ナ今

俗寡ナと云ふと寡ナと云ふと又採ルるルといふ

あつら

様ヤウ 廣韻式様ニ今俗ノ鄙様ノ俗様ノ俗ノ俗ノ

あり。わろくしとせば詞あり。元和様ノ官様

あつらふ也。俗ノ様ノと用ふる也。様ノ様ノ様ノ

字ノよ同シ。折實也。

役夫ヤクフ 左氏文公傳ニ行芋怒曰呼役夫ヲ註

賤者之稱

瘦ヤセ 髡サカシ 髡ガの字ハ莊子ニ出ス

山ノ影ノやせと云ふと云ふ

夫木 俊頼

正誤

矢張ヤハカ やつかりと云事をやつかりと云。やつかりと云。
 流鋪ヤブカ やぶか
 並誤ナミ やつかり
 瘦ヤセ やせ
 後ヤイトウ やいとう

末第二十八

諺

盲龜メクラカメの浮木ウキボ 法華經佛難得值フツキ如
 優曇波羅華ウツクシ又如一眼之龜メクラカメ值浮木ウキボ孔
 於科注コカよき。又涅槃經及雜阿含經
 よ洋あり。
 曲カら絲イト世セよちチ世セ說セツ曰イハレ王充オウチュウ祿リク如
 屏風ビョウブ屈曲クツクツ從俗ジュク能蔽カサ風露フウロ玉タマ光クワウ祿リク傳デン乞キ
 後ノチのノチとト同ドウ
 蒔カぬ種タネハ生ナぬ 山谷サンコ頤軒イケン詩シ曰イハレ涇流ケイリウ不フ濁ダク
 謂イハレ種タネ桃トウ無ム李リ實シヤク註チュウ俗諺ソクセン曰イハレ種タネ李リ不フ成セウ桃トウ

種禾不生豆美域同

俗語

罷歸ニカリカレ

史記公孫弘傳ガよあり又

漢書宣帝甘露三年二月單于罷歸又
高祖紀兵皆罷歸家。礼記少儀云燕遊
曰歸師役曰罷陳註師役勞苦為甚故
於其還曰罷以其疲故也。乞と以て入れ
ん。兵歸ると云。軍行れゆふよ云何や
し。さしを史記よあり。軍行のゆよ云
よあり。今とつひよ云何とあり。兵
出と云はいづま。さしや。されどし

うりあやまりて云さしを今更改し
萬葉集よん。退出の字と用たり。退れ
字と用ばあやまりよあり。今孫の字を付て云
詞多。独考せ云す。
カしざれたて人のまうりあて

萬葉集

あさむとあれ月のさやけさ

萬劫 楞嚴經警爾生情萬劫羅鎖

萬分 莊子云其存之國也無萬分之二

每每 莊子胠篋篇天下每每大乱註每

每常也

博ハラス以手ヲ園物也。礼記云勿博ス飯ヲ

博ハラス

ハラス

也中華詩。隨意殘花寂寞開庭州
無欠隨意綠。おれ句多

儘

五侯鯖字海第七卷盡字部有儘字。
註云音儘可有也。頗也。詩格註極也。皆
也。字彙與盡同。又小補韻會盡字註極
也。又皆也。一云任也。縱令也。

海事
禁厭

論語子入太廟每事問
日本紀の訓あり
藻垣草は刈せり。人をもてるは
り。俗は。の字を。はあり。

郷食

正譌

捲物

誤

松脂

誤

蓋明

淪滑

誤

真向

誤

斗格

誤

仙太餘藥立鼎中雞犬舐之並得飛昇

故雞鳴雲中犬吠天上は後中と神仙傳に云

刑鞭蒲朽小野國風詩刑鞭蒲朽螢空

公諫鼓苔深鳥不驚乞ハ劉寛が蒲鞭の

ありのりも刺してさむしてはるまじと作

まじり或云大江朝綱詩也

けつ人の上明日ハ我身れ上 悪源太義

平死よ臨て平家の士よあしてさるる烟

るり平家物語

新刊と けつと人ともあつてさるるのり

多しおくれのり

碩鼠才 伊の字れ部石田藝の條下にくじ

螢雪の功とつじ 檀道鸞晉陽春秋云東

胤字武子學而不倦貧而不常得油夏

月則練囊盛數十螢火以夜繼日焉孫

氏世錄云孫康家貧無油常映雪讀書

これ入のぬりよりりて勤苦してまひる

まじりもさるるの功とつじとさるるハせり

けつりあすり 人のを境よるく 殘齡れ

けつりあすり云境あり 新考

詩經卷之五

人の世をどうとていへば

今つらあはしくもなほけつごうは

俗語

権輿 詩經秦風よ。権輿篇あり。朱子註云。権輿始也。華谷嚴氏曰。造衡自權始。作車自輿始。今俗よ。始となく不。馬おもふと。事とげん。うしあふと。いふ。六。けつごあり。

誼譚 文選左太沖蜀都賦。誼譚鼎沸とあり。乞物のか。うま。い。と。ま。り。と。ま。今。俗。よ。討。争。す。か。と。誼。譚。と。ま。ハ。物。の。い。あ。し。そ。い。

てくゆひとーとあよ

権柄

前漢書劉向傳。大臣操権柄持國政。権ハ秤の錘也。柄ハ斧の柄也。ち。あ。れ。不。あ。れ。い。よ。あ。る。人。と。い。ふ。て。ま。也。

逆鱗

天子ハ怒と逆鱗と云。今俗。平人の怒。る。と。も。逆。鱗。と。い。ふ。と。云。ハ。逆。り。韓。非。子。曰。夫龍之為蟲也。可擾狎而騎也。然其喉下有逆鱗。徑尺。人有嬰之。則必殺人。主亦有逆鱗。說之者。能無嬰人主之逆鱗。則幾矣。

彦州卷之五

詩州卷之五

輕薄

後漢書馬援傳援戒其子姪曰效杜季良不得陷為天下輕薄子杜子美貧交行紛紛輕薄何須數今俗之威儀

族

使大聲左傳云公嗾夫獒焉

權勢

史記始皇本紀也。杜子美

詩兄將富貴等浮雲茅竊功名好權勢

謙退

史記云君子以謙退為禮

下輩

史記灌夫傳夫稠人廣眾荐寵下

輩

輕重

禮記王制云剛柔輕重遲速異齊

嚴重

後漢袁安傳為人嚴重有威

堅強

老子云天下柔弱莫過於水而攻

堅強者莫知能勝

下劣

法華經云志意下劣

誓古

此字書經堯典也。後漢書桓榮傳

今日所蒙統誓古之力也。乞八字のれ事以

今日所蒙統誓古之力也。乞八字のれ事以

今日所蒙統誓古之力也。乞八字のれ事以

慳貪

法華經云眾生垢重慳貪嫉妬

莊子曰。已化生。又化死。

化生

野植よ云。製かひれはる義也。晴法

礼の義なり。私公とし書く。考よる

もの。とけごる。と云。お服礼也。

れ。よめ。と云。詩經葛覃朱傳私燕服也。

衣礼服也。私とけれ。と云。私を

くれ。よめ。と云。韻會云。説文製私服

又衣の破。と云。製と云。衣服は

こ。と云。公家と晴と云。私。の。と云。製れ

職原抄。晴時。雖下。諸著

形勢

野植よ。曰。日本紀よ。形勢とけ。ひ

と。あり。新猿樂記よ。景氣と云。あり

恠瑕

倍よ。思ひ没と。て。疵と被つと

恠形と云。

見解

字彙云。解釋也。曉也。道理と云。て。

こ。と云。と見解と云。鶴林玉露云。曾

點之見解。顏子之工夫

家礼

下。その集よ。かま。か。人の義也。親

房卿。残。原。抄。よ。家。礼。の。字。と。用。なる

諺州卷之五

傳信よ曰。也。或礼と云。子の父と云。或も事
る。り。他人る。れ。た。る。よ。准。て。礼。と。傳。と
と。今。れ。世。も。も。か。或。礼。と。云。ま。れ。り。又
家。令。と。し。書。く。史。記。高。祖。紀。大。公。家
令。説。大。公。云。こ。そ。亦。求。人。の。み。た。れ。る。或。令
と。云。也。志。し。し。

飢渴 田舎れ鄙民。飢饉と云。事と。げ。ら
の。り。と。云。は。げ。字。なり。飢渴の字。字。西。子
よ。出。り。

啓上 通鑑宋武帝記。馳使啓上

結構 文選靈光殿賦。觀其結構。規矩應

天註。善曰。高誘。呂氏春秋註曰。結。交。也。
構。架。也。構。の。字。手。に。从。也。り。結構。と。ハ
じ。と。ひ。つ。ま。い。り。と。云。あり。今。傳。よ。物。の
構。と。云。て。物。の。よ。と。云。事。と。く。と。云。ん
懈怠 類書纂要。懈。懶。也。怠。倦。也。怠。不。敬。
菩薩本行經云。夫。懈。怠。者。衆。行。之。累
見在 史記齊悼惠王世家。於。今。見。在。文

選劉子駿文今其書見在

驗

史記秦二世紀趙高欲為亂恐群臣不聽乃先設驗持鹿獻于二世言馬也

今俗語のありしをいふに字なり俗語の字といふはしりしをいふに字なり

疑

楚辭云聖人不疑滯於物能與世

推移

權

文選陳孔璋檄云輸貨權門註濟

曰權勢也

檢見

俗よ秋農監の人年れ下と云

欽法と云むると檢見と云り

周礼司稼掌

巡邦野之稼而辨種稷之種周知其名

與其所宜地以為法而縣于邑閭巡野

觀稼以年之上下出欽法掌均萬民食

而賜其給而平其興

顯證

居家必用曰顯證謂知見爭端之

人也又陳遵云左旁知狀謂之見證今

と鞠のどの時旁とてんる能人と云

と云

卷之五

十六

論語集注

外道

釈氏佛書と内典と。儒書と

外典と云。史記と云書よ。儒書と云。内典と

云。佛の外の外と云。推て知る。と号と

る。孔子の道よ。あつて。孔子の道よ。孔子の道よ。

孔子の道よ。あつて。孔子の道よ。孔子の道よ。

孔子の道よ。あつて。孔子の道よ。孔子の道よ。

孔子の道よ。あつて。孔子の道よ。孔子の道よ。

孔子の道よ。あつて。孔子の道よ。孔子の道よ。

孔子の道よ。あつて。孔子の道よ。孔子の道よ。

險阻

左傳僖公傳云。險阻艱難備嘗之

矣。朱子曰。險與阻不同。險是自上視下

阻是自下觀上。又韻書よ。山の巖と險

云。水の隔ると阻と云。名ひろくいふ

山水皆通。大行れ路。巫峽れ

水と。人心れ及。夜の平に。人の心

れ。或險阻と云。或險阻と云。

古云。六經而謂之六藝。藝猶種也。學者

用功於六經。猶農者用功於種藝。技能

と云。農夫の力と云。農夫の力と云。

農夫の力と云。農夫の力と云。農夫の力と云。

農夫の力と云。農夫の力と云。農夫の力と云。

論語集注

結句 俗よ。ちと多くむむとびりてゆく

可よ。結句と云。詩の結句よ。是れ句の

兼約 文選東征賦。無怠思兼約

怪事 俗よ。此事を事とけらと云。けり也。

決定 圓覺經云。生決定信

正譎 雞頭花 けとぎ 懸魚 けんぎょ 玄關 げんくわん

結句 けいご 怪瑕過 けがら 慳貪 けんこん

疥癬 せけん 無懸念 むけんねん

潔白 けつぱく

不 第三十

諺 舩ときざび 呂氏春秋曰。楚人劔

自舟中墜水。遽契其舟。曰。是吾劔所從

墜也。舟已行而劔不行。不亦惑乎

普天の下。率土の濱。詩經北山篇云。溥

天之下。莫非王土。率土之濱。莫非王臣

論語

曰。温故而知新。可以為師矣

蟬の一期 世のくちの事は諭ていす。

神卷之五

言州之五

大戴禮夏小正曰。蜉蝣朝生而暮死爾。雅云。蜉蝣渠畧郭璞註云。似蝓蟻身狹而長。有用叢生糞土中。朝生夕死。陸逵疏曰。通謂之渠畧。似田蟲。有角大如指。長三四寸。甲下有翅。能飛。夏月陰雨地中出。白樂天詩云。長生無得者。舉世

佛種從緣起

法華方便品凡偈也

俗語

粉骨

文體明辨二十九卷。唐韋

臯與將士盟文曰。粉骨糜軀。決無所顧。

今功勞河上。粉骨也。粉骨也。粉骨也。

分別

法華經云。思量分別之所能解。

不肖

中庸云。夫婦之不肖。可以能行焉。

前漢書武帝紀云。所任不肖。師古曰。肖似也。不肖者。言無所象類。謂不才之人也。文選四十一。不肖之才力。註云。不肖。謂不才也。善云。禮記云。某之子不肖。應劭風俗通云。生子不似父母曰不肖。今也。為人。志。事。不肖也。

卷之五

九

觸

俗よ。人くに行て。事と昔とと。觸と云。觸は觸事なりと云也。志ろゆん。觸、突犯の義として行示のこ義は。志ろゆん。行示のゆん。觸と云へん。觸と云へん。史記よゆん。漢書高祖紀註師古云。徇行示也。司馬法曰。斬以徇。言使人將行徇示衆士以為戒。武士。漢書惠帝紀よゆん。註。武士。力士也。

不倭

漢書高后紀よゆん

不祥

古事紀此訓也。不祥の字。老子經

分散

左傳桓公五年傳よゆん

輻輳

史記張儀傳。四通輻輳。前漢書賈

誼傳

輻輳並進。小補韻會云。輻輳競聚

不曰

詩經よゆん

不鹽

志の字部に詳也

布施

國語周語よゆん

普請

普請の字。三國志呂蒙傳よゆん。

言州知之五

家造ると普請と云。沙門の造り。普く造人と招請と多力とて。まとな
以依なり。教修清規云。普請之法。蓋上
上均力也。分付堂司行者。報衆掛普請
牌。仍用小片紙書貼牌上云。某時某處
不快氣。輟耕錄第十一云。世謂有疾曰
不快。陳壽作華陀傳亦然。俗よ。病あるを
不快氣と云。扱るるをいあし。

富有。易繫辭云。富有之謂大業。人
浮沈。史記游俠傳云。豈若早論齊俗
世浮沈而取榮名哉。不斷。漢書元帝贊云。優游不斷。是ハ決斷
ぬるる事と云。今俗よ。平日れ事と云。好
と云。
風聽。國語晉語。風聽臚言於市。註。風來
也。とあり。臚言ハより。俗と傳て。下に
と云。と云也。と云。つらに通と云。やと。
采やうなり。今俗よ。物と傳と云。

言州知之五

言州知之五

詩州卷之五

あつてと云へ。風聽の云はるり。

扶持^{フツ} 内則よ出たり。又孟子云。疾病相

扶持^{フツ}

史記高祖紀多以金^ラ啗^ス將^ガ 啗亦與^同也

武功^{ブク} 詩經七月篇云載績^ナ武功^ラ

不德^{フデ} 左氏僖公傳不穀不德得^レ罪于母

風情^{フウセイ} 東坡詩消磨未盡只風情

文莫^{ブンモク} 下學集云文莫無智之義也今按

述而篇子曰文莫吾猶^ナ人也何晏集解

莫無也文無者凡言文皆不勝於人文

莫^モと云智の義とするん。古語のさまり

歩^フ 艱^{ガシ} 人の歩よ場さるとあんとさば

夫^フ 字彙云庶人往役曰夫往役と公役

無骨^{ムボネ} 源氏常よ骨^{コチ}なりと云て

骨^{コチ} 骨^{コチ}にけりといふく。骨^{コチ}にきて

かひりねる。細流抄に骨^{コチ}あり。骨^{コチ}よ

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 文選潘安仁西征賦入屈節於廉公

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

骨^{コチ} 骨^{コチ}と云骨^{コチ}ありと云骨^{コチ}の骨^{コチ}

分明 漢書薛宣傳ハカク也カク。註師古云。

分明 謂考問使知清白也。

分際 漢書儒林傳ハカク也カク。

無朝榜 埃囊抄ハカク云。六條内府有房卿。

説ハカク曰。上古時繪銅細工也。皆朝ハカク也カク。

細工ハカク下榜ハカク不堪ハカク也カク。被榜ハカク也カク。

禁中ハカク下榜ハカク也カク。題榜ハカク也カク。

困學記聞云。出魏程曉上疏。

分外 孝經云。移風易俗莫善於樂。

風俗

川曰。風者上之ハカク所及。俗者下之カク習所。

成。漢書地理志云。人有剛柔緩急音聲。

不同。繫水土之風氣。故謂之風。好惡取。

舍動靜嗜欲。故謂之俗。

風聞 文選沈休文奏彈王源云。風聞註。

善曰。漢書尉佗曰。風聞老夫父母墓已。

壞。削賈逵國語註曰。風采也。采聽高旅。

之言也。此注のめくあり。風采也。采聽高旅。

無雙 東方朔答客難云。

無雙

四

文若畫脂鏤氷費日損功

氷氷より出て水より寒し。荀子曰學

不可已青出於藍而青於藍氷生於水

寒於水 新考

胡馬北風よいよ 文選二十九古詩云

胡馬依北風越鳥巢南枝 乞胡るハ小

狄のころむねハ小風と云るハ越るも

葡萄れ禽なりねハ葡萄は巢よ皆を中と

忘れざる喻也 新考

胡椒丸吞 朱子ハ大凡讀書須是熟讀

熟讀了自精熟 熟後理自見得如喫

果子一般劈頭方咬開未見滋味便喫

了須是細嚼教爛則滋味自出方始識

得這箇是甜是苦是辛始為知味 語類

乞果と喫とる事と喻して義理と咬

碎て喫とる事とあり 誠ハ世活の明

椒丸の事とあり ハ

言語道斷 法華經ハ云るハ朱子陸象

山の事と稱して言語道斷心思路絶と

いなり 新考

諸州卷之五

故郷よ錦とりさる。史記項羽本紀云。項

羽曰。富貴不歸故郷。如衣繡夜行。誰知

之者。漢書繡作錦。師古曰。無人見之。不

榮顯矣。後漢景丹傳亦有此語。南史劉

之遴傳。令卿衣錦還郷。又唐魏元忠傳

有衣錦晝遊之語。歎よ

後撰 紅紫よとよひつりて錦よて 讀人よ

心の師とふれ心と師とせふれ。涅槃經

第二十八卷云。原作心師。不師於心。

後悔さるるに

さるるにぬるれやらびるるに

奥儀抄曰。世人よまきさるるにぬる

物さるるにぬるるにぬるるにぬるるに

心の鬼り身と責る。佛說正法念經云。

閻羅獄卒。非實有情。以衆生妄業力。故

見之。佛ハ演説るり。地獄と。大まも鬼畜

也。修羅も。皆一ふれ也。

蝴蝶乃夢。莊子逍遙遊篇云。莊周夢為

蝶也。

蝴蝶栩栩然不知周之夢為蝴蝶。蝴蝶之夢為周。新考

百々せんをいぢりてまゝにして

功なり名をけて身退く天の道。老子經

云。功成名遂身退天之道。新考

狐狼野干。四字連續法。華經に出る。野干と狐と同く野干、形小、尾大也。

純木よきる。狐ハ形大くして木よきる事。あつらん祖庭事云。野干梵云悉迦。四

又名夜干。或名淋干。聲如狼。

俗語

建立。俗よきものなり。その他も

建立と云。けり。國語。音。出。又漢書。郊祀志云。建立社稷。

故實。國語よきなり。註。韋昭云。故實。故

事。之。是。者。

入骨髓。史記秦本紀に出る。

故老。困學記聞云。出書無逸。註。

事託。事物と云。て。人。託。て。事。託。

事託。事物と云。て。人。託。て。事。託。

神

言傳言と傳して。必思を人にいひやると云
津傳しと云事。此を傳混して。了と云
文選高唐賦傳言羽獵魏文帝與鍾大
理書傳言未審。是と云。此傳の事也。

榜形とやら事也。字彙云。進舟也。

こくする。後よ。病る。このつれと云。こくす

とと枕する。よ。りのけ。よ。こくす。こくす

るま。中。あり。困の字也。こくす。こくす

混雜又こくす。こくす。こくす。こくす。こくす

雜貌後よ。抄の混亂して。ま。こくす。こくす

予本財と後よ。こくす。韓文柳氏墓誌に

後悔あ。詩經江有記云。之子于歸。不我以

其後也悔。其後也。悔。

巨細張茂先鷓鴣賦。巨細舛錯。朱子太

學序云詳畧相因。巨細畢舉。

今朝詩經白駒篇云。以永今朝。

困窮書經。舜典云。四海困窮。天祿永終。

勉漢書楊惲傳。よ。師古云。旗之也。

故迹唐太宗詩。沈沙無故迹。

唐太宗詩沈沙無故迹。

の義は通じし

沽却コキヤク 却らげき也。破却滅却。忘却など云

がみ。物とつらき事と云あり。下巻此詞あり。了迄却せし

興行キヤウキヤウ 潘元茂九錫文。俾民興行

扈從コセウ 司馬長卿上林賦云。扈從橫行師

古云。扈從隨侍之義。又留青日札云。言

隨從天子逐獸橫行也

御前ゴゼン 蔡邕獨斷云。天子所在曰御前。今

俗よ。あつり位なるも人よあつていかに

沙衣なりと云。備と乃詞とて。必強ちる。つし中華にて。天子の服と沙服と云書と沙書と云。皆曰海と統沙と云。我と云て。天子なりと云。沙の字と云。則

虎口コウ 莊子盜跖篇。孔子曰。疾走料虎頭

編。虎鬚幾不脫。虎口哉。今俗よ。危場よ

臨を。虎口よと云。又軍壘を虎口と云。

滑コウ才サイ 世説云。大叔廣長コ才

滑コウ警ケイ 下學集に。滑警利口の義也といふ。史記樗里子傳。滑警多智。索隱云。滑音

笑^ニれ中^ニの^ニ劍

唐書云。李義府貌足恭。與人

言^ニ嬉怡微笑。而陰賊偏忌。著^ニ于心。凡^ニ忤

其意者。皆中傷^ス之。時號^ス義甫笑中^ニ有^ニ刀

誤^ラれ^ルら^ニ出^スり^ニ新考

何事とありひきりともあはれし

秦

あはれし^ニひきり^ニともあはれ^ニし^ニ衣笠内大臣

もよそねん人ともあはれし^ニひきり^ニし^ニ公朝

あはれし^ニひきり^ニともあはれ^ニし^ニ

枝^カと^カた^カら^カし^カぬ^カ所^カ代^カ加^カの^カ字^カの^カ初^カより

鋤^カ刀^カ一^カ割^カ此語後漢書より出^カり^カ又^カ文

選左大冲詠史詩。鋤刀貴一割。註東觀

漢記。班超上疏曰。臣乘聖漢威神。冀倣

鋤刀一割之用。註濟曰。以鋤為刀。只可

一割不可再用

俗語

縁起

神社佛もれあるまると記せら

と。信よ縁起と云縁起と記せら

せらぬもや。縁起のまの佛書より出^スり

楞伽經第二よ。佛説縁起とあり。梁任

昉文章縁起一卷と他ら。秦漢より以

來。文章名目の始と記せり。

榮耀

文選曹子建雜詩榮耀難久恃註

榮華

邊讓章華臺賦榮耀春華

榮華

班孟堅答賓戲云朝為榮華夕為

顛顛

會得

邵子詩云此景分明誰會得

正論

誤

東

多

穢

多

烏

帽

天第三十三

諺

天乃與少多却て

史記陳餘傳天與不取反受其

外辭出國語說苑云天與不取反受其

咎時至不迎反受其殃天地無親常與

善人逸周書云天與不取反受其咎當

斷不斷反招其亂

孟子曰以齊王由反手註云反手言易

也新考

諺

諺

天よあゝ比翼の鳥。地よあゝ連理枝。白
 氏文集長恨歌曰。在天願作比翼鳥。在
 地願為連理枝。これ唐玄宗の楊貴妃
 と。しらへいとせし事と他は同也。
 天知地知。後漢書曰。楊震為東萊太守。
 道經昌邑。震初為荊州。舉茂才王密。密
 時為昌邑令。謁見至夜。懷金十斤以遺
 震。震曰。故人知君。君不知故人。何也。密
 曰。暮夜無知者。震曰。天知。神知。子知。我
 知。何謂無知。密愧而去。
氏族排韻大全
 天知地知子

知我知子。俗語
 云。よむつりや。

貞女。兩夫よまらぬ。説苑。王歎曰。忠
 臣不事二君。貞女不更二夫。
王歎云。忠臣
 不事二君。貞女
 不更二夫。今

鳥雀枝の深さ。杜子美詩。鳥雀

聚枝深。新考

鄭家奴。奴婢皆讀書。一婢不称意。使人
 拽著泥中。須臾一婢來問曰。胡為乎泥
 中。
詩經邶風式
 微篇の初也。 答云。薄言往愬。逢彼之怒。

諷州卷之五

冊七

てごご 又とてごごと云。大務よは内あり。
頃て、いちと通ひごは清也。又清と云。

天性 漢書賈誼傳。少成若天性。又俗よ。

天性自然と連杯す。王子淵洞簫賦。

因天性之自然

天然 漢書谷永傳云。陛下天然之性。

天變 漢書劉向傳。天變見于上。

調度 野植よ云。調度よ。鳥帽子愚れや。

天よなるりのと云と云人あはれ。只一切凡

ものなるも云りか。源順如名

抄よ。洞彦、抄と云く。流のなるも裁

より。抄よ。一切道具と云。洞彦と云ん

ゆ。抄よ。抄よ。漢書谷永傳。洞彦と云ん

一切抄也。流彦に。抄よ。抄よ。抄よ。

洞彦。流彦。抄よ。抄よ。抄よ。抄よ。

抄よ。抄よ。抄よ。抄よ。抄よ。抄よ。

打擲 字書。打撃也。擲抛也。法華經。衆人

或以杖木瓦石而打擲之。杖木よハ抄よ

云。瓦石よハ擲と云。今ハ抄よ抄よと云

名と知があら。漢字の解。邦に倭
字の出たを分れ。を系ゆられやせ
し。し。系出く。あ。の。名。と。知。あ。し。

展轉 詩經よ出。漢書師古註展轉

謂移動其心。俗よ多言なり者を喋りせ。史

記張釋之傳豈數此。晉夫謀謀。口捷

給我索隱云。漢書作喋喋。多言也。

送代 人よ代て事と物と也。

田父 潘岳賦。談話不遇。是田父之客。

今俗よ。物の健なるを田父と云。

朝議 潘安仁關中詩。朝議惟疑。今俗よ。

人の言。意によりて。物。後。の。よ。い。り。し。さ。な

と云。い。げ。字。も。る。し。

方便 波の字れ。波よ。

調伏 唐文粹。身口意。三業難調伏。

傳受 元史李俊民傳。得河南程氏傳受

之學。

諺州卷之五

正誤

顛てう魚いてん

手鼓テグ糸ス糸ヒ子コ子コてく

的斗テキキていど

出来デキハ誤ハ傀テウ儡ル

田樂デンガク豆腐ドウフ

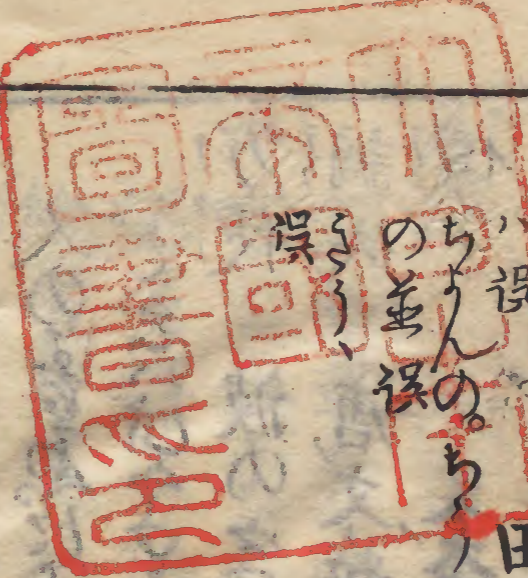
鐵テツ橋キョウ新シン

啄木鳥テツキキ

鐵橋テツキョウつて

誤コト

ちりんのち



諺州卷之五終

